

DAM (Design Attitude Measurement) ツールの仕様と活用方法のご案内

企業の「デザイン力」測定ツール開発の背景

現在の企業を取り巻く経営環境は、VUCA（Volatility：変動性、Uncertainty：不確実性、Complexity：複雑性、Ambiguity：曖昧性）に代表される不確実性の高い状況であるとされます。

企業が今度も継続的に価値を生み出していくためには、既存の選択肢の検討ではなく、新しい枠組みや意味を問う活動が必要となります。そのためには、「デザイン態度 (design attitude)」と呼ばれる資質を持つ個人を見つけ・活用し、企業のデザイン力を高めていく必要があります。

この個人の資質を測定するツールとして、立命館大学DMLではDAM (Design Attitude Measurement) ツールを開発し、個人・グループ・組織のデザインの資質の測定を可能としました。



なぜ「デザイン」なのか？

デザインとは、「厄介な問題 (wicked problem)」と呼ばれる問題を解決する方法です。厄介な問題とは、決められた正解がなく、人によってその解釈が異なる可能性があり、また他の問題と階層的に繋がっているような複雑な問題を指します。

これらの問題を解決するためには、一見矛盾しているような状況に対して前提を問い直し、新しい解釈を与え、みなが納得するかたちへと協調しながら変化させていくアプローチや思考が必要になります。このアプローチこそが、デザインに他なりません。

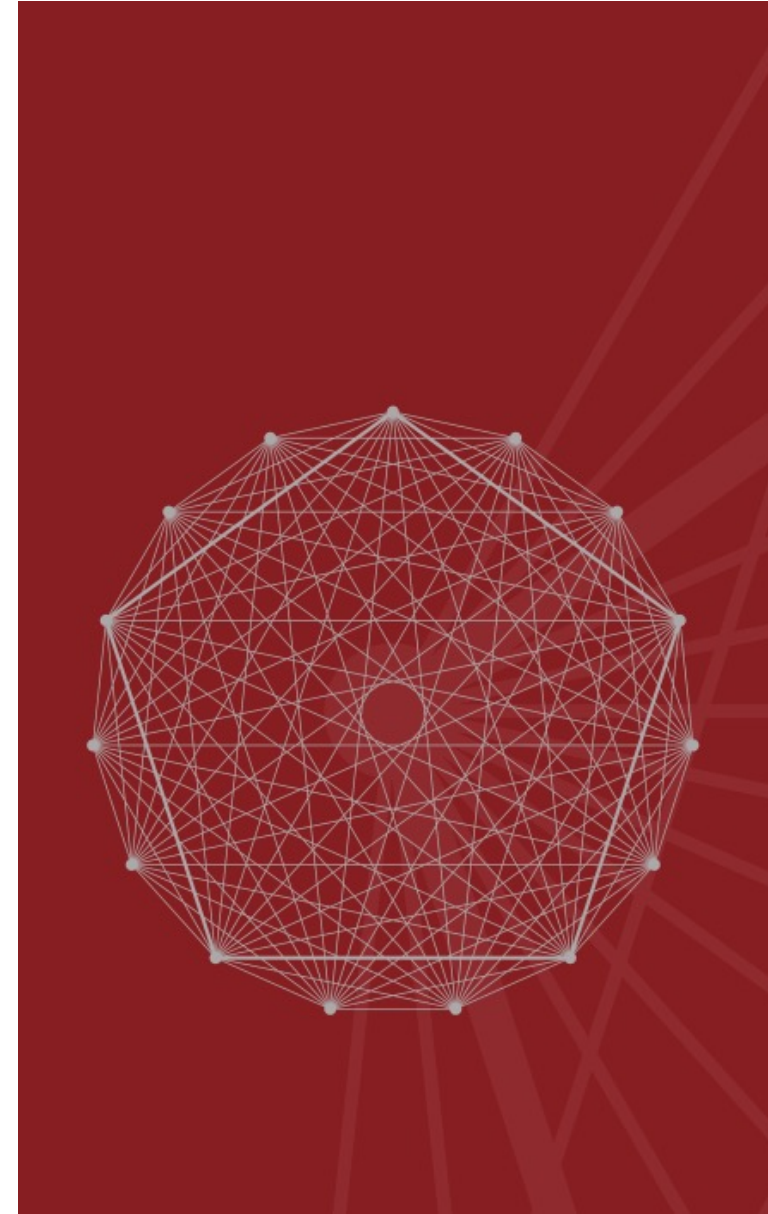
これは、「よい映画 (good movie)」を選ぶことと「よいパーティー (nice party)」をつくることの対比に例えられます。映画はいかに良い選択をするかの問題ですが、パーティーはどのようにもつくることができます。正解が決まっていない中で、みなが納得するものをいかにつくるを考えるのが、デザインのアプローチになります。



DAM (Design Attitude Measurement) の概要

個人のデザインの資質を測定するテストとして、DAM (Design Attitude Measurement) を開発しています。DAMでは15個の質問を用いることで、以下の5つの問題解決に対する態度を測定します。

- 1. 「実験主義 (Experimentalism) 」
- 2. 「楽観主義 (Optimism) 」
- 3. 「可視化への信頼 (Visualization) 」
- 4. 「協調 (Collaboration) 」
- 5. 「共感 (Empathy) 」



1. 実験主義 (Experimentalism)

この項目の得点が高い人は、失敗に対して恐れずに取り組む態度を持っています。失敗は成功の基という言葉があるように、失敗は学びを得るための機会を提供します。本当の意味で新しいものをつくり出すには、まず試し・そこから学んでいく姿勢が重要です。期待していた結果が訪れなくても焦る必要はありません。むしろその失敗こそが未だ明らかになっていないということの証明になるのですから。

以下の質問で測定します。

- あるアイデアが失敗に終わった際、私は主にその経験から学べることに目を向ける。
- たとえ失敗に終わった解決策からでも、その問題についてさらに学ぶためのよりよい機会が得られる。
- 私はいつも、失敗したアイデアから学べることに目を向けている。
- 私は解決策に関するフィードバックを得たら、その情報がどう使われるべきか手を止めて考える。



2. 楽観主義 (Optimism)

この項目の得点が高い人は、状況に左右されない楽観的な姿勢を持っています。楽観的という言葉には普段はあまりよいイメージを持ってないかもしれませんが、問題をはらんだ不安定な状況下においては非常に有用な心構えとなります。この態度を持つ人は、進むべき方向が見つからない中であっても、はじめの一步を踏み出すことができます。どのような難しい問題であっても、解決の糸口を探そうと努力することができます。

以下の質問で測定します。

- どんなに難しい問題であっても解くことはできる。
- どのような種類の問題であっても、その解決策をつくることは可能だ。
- 私はすべての問題は解くことができるものであると信じている。



3. 可視化への信頼 (Visualization)

この項目の得点が高い人は、視覚化に対して強い信頼を持っています。「ライト」という言葉からどのようなものを連想しますか？手持ちのペンライト、天井照明、はたまた「軽い」というイメージを持った人もいるかもしれません。言葉や文字のような情報だけでは、他者に自分の認識や解釈を伝えることは困難です。さらに、視覚化の技法を用いれば、これまでにない形容し難い新しいアイデアであっても、具体化し伝えることができます。この姿勢を持つ人は、他者とのコミュニケーションにおいて視覚化がもたらす影響をよく知っています。

以下の質問で測定します。

- 解決策がどのように機能するのかを示すために、私は視覚表現を使うことを好む。
- 私は人に視覚表現を使って自分のアイデアを説明するのが好きだ。
- 視覚表現は、アイデアを説明するのに非常によい方法だ。



4. 協調 (Collaboration)

この項目の得点が高い人は、ものごとを他者と協調して解決していこうとする姿勢を持っています。一人でじっくりと・一つの視点からものを考えることも時には重要ですが、自分の発想にはないような視点をもたらすのはいつも他者の意見です。問題解決に取り組むには、複数の視点から多角的に物事を見たり、一つの解決策に固執せず、他の人の意見やアイデアをどんどん取り入れていくことが大切です。協調性はプロジェクトを進めるための基礎的な能力と言えます。

以下の質問で測定します。

- 私は最良の解決策はアイデアの共有から得られるのだということを知っている。
- 問題の解決に取り組む際は、私は他の人とのつながりを積極的に探そうとする。
- 解決策を完成させるには、他の人から提案されたアイデアを反映させることが非常に重要である。



5. 共感 (Empathy)

この項目の得点が高い人は、他者の目線に立って物事を考えることができます。英語には、「他人の靴を履く」ということわざがあります。これは相手の靴を履き、それで歩き回ってみてはじめて相手の気持ちを理解することができるということを表しています。問題に頭を悩ませている人は、どのような気持ちで・どのようなことを思うのでしょうか？問題の定義は人それぞれに異なります。自分を捨てて・他者に共感することは物事の本質を捉える第一歩になります。

以下の質問で測定します。

- 私は、その状況に頭を悩ませている人々の視点に立って問題を見ることが簡単にできる。
- ある問題から受ける影響について人から相談されるとき、私は彼らの目線に立って状況を理解することが簡単にできる。

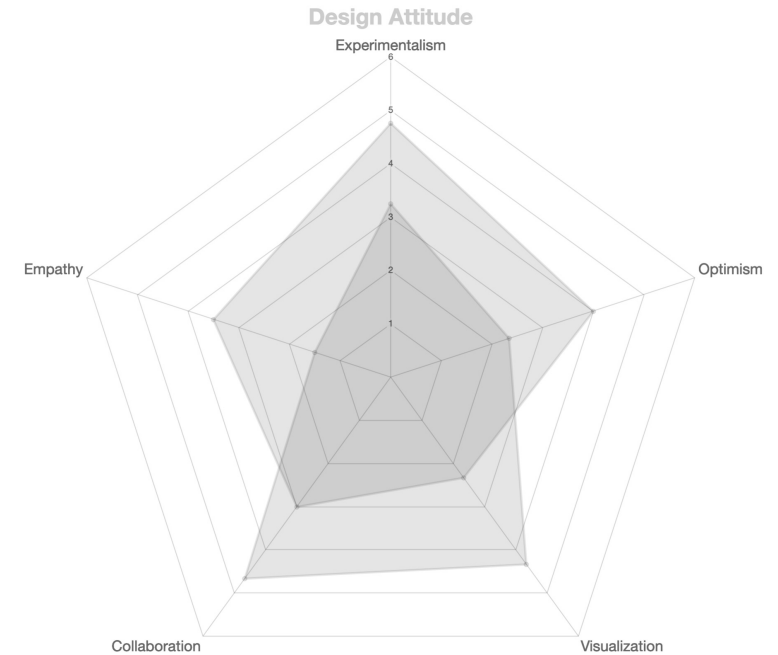


DAM (Design Attitude Measurement) の仕様

現在のDAMでは、デザイン態度の測定を通して個人・グループ・組織のデザインの資質の測定を行うことが可能です。

デザイン態度は15個の質問を通じた自己回答方式の報告から評価します。DAMではまず質問に答える前に、普段の仕事における問題解決の場面を想像してもらいます。その上で、仕事の状況の中でどのような態度を・どのくらい重視するかを尋ねます。

個人の思考の癖や仕事への取り組み方は、特定のものとへの態度を問うことで明らかになります。DAMは個人の顕在的・意識的レベルにあるアプローチを推測することを可能とします。これは個人の最大のパフォーマンスを測定する能力テストや達成テストとは異なり、普段の状況での典型的なパフォーマンスを測定する形式のテストに含まれます。



DAM (Design Attitude Measurement) の活用方法

個人のデザインの資質を評価し集計することで、部署やグループ、組織全体のデザイン力を測定することができます。DAMでは部署や職能ごとの平均値を出したり、それぞれの比較分析を行なうことができます。

DAMは個人の資質に関する基礎的な調査ツールですが、分析や比較の単位は変更可能であり、その他の指標と組み合わせることで様々な分析に応用することができます。

以下のような活用方法が可能です。

- デザインの資質の高い人材の特定とアサイン
- デザイン能力育成の効果測定
- 部門・チームレベルでのデザイン力の測定
- 個人・組織のデザイン力とその他のパフォーマンス項目との相関の分析

その他にもご要望に応じてさまざまにカスタマイズが可能です。

